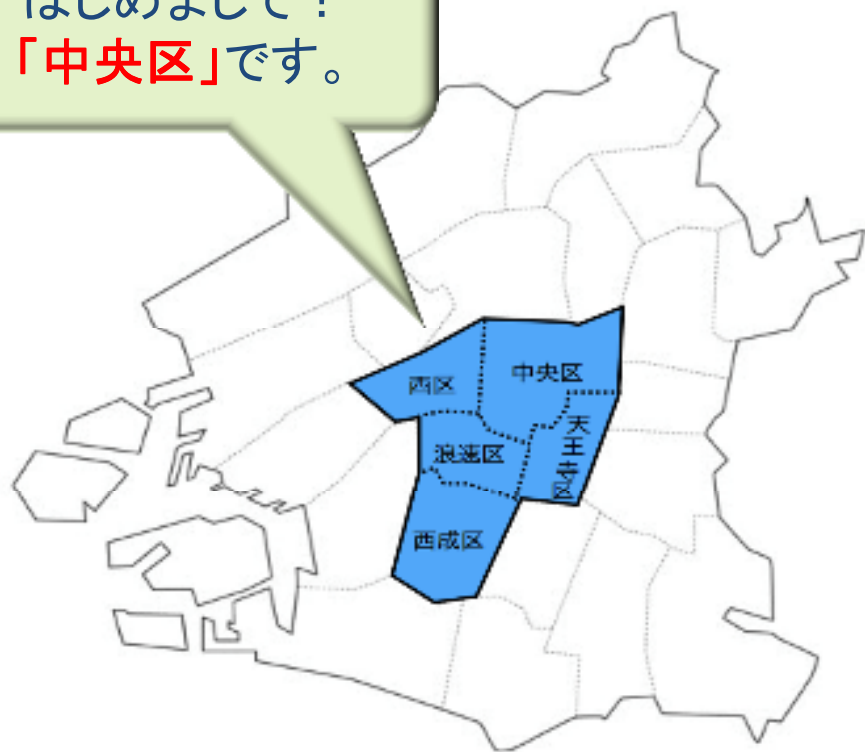


中央特別区マニフェスト<詳細版>

はじめまして！
「中央区」です。



大阪維新の会

おおさかいしんのかい

中央特別区政策委員会



世界に誇れる
わくわくゲートウェイシティ

A nighttime photograph of a busy city street, likely in Osaka, Japan. The scene is filled with vibrant neon lights and illuminated signs. On the left, a vertical sign reads '広告募集' (Advertisement Recruitment). In the center, a large, bright sign features a cartoon character. To the right, several signs are visible, including one for 'ゴルフネット' (Golf Net) and another for 'はや' (Haya). The overall atmosphere is one of a bustling, modern urban environment.

はじめに

特別区の設置が実現すれば、中央区の区長を選挙で選べるようになります。特別区の区長は予算編成権、人事権、条例提案権という強力な権限を持ち、選挙で掲げたマニフェストの実現に全力を尽くすようになります。

これまでの政令市としての大阪市では約267万人の人口に対して、1人のリーダーしかおらず、基礎自治体として、目を行き届かせる事は非常に難しい体制でした。特別区を設置し、約40万人に1人のリーダーという体制を作ることにより、これまでより一層目の行き届いた住民の声を活かした区政が実現できるようになります。

住民が力を合わせれば統治機構を変えられる。役所の形を変えられる。政治を動かせる。大阪都構想の実現は、真の民主主義への挑戦です。大阪の未来の形は議会や役所で決めるのではなく、住民投票という究極の民主主義のプロセスで決めるべき重要な問題なのです。大阪都構想の主役は大阪に住む一人一人の住民です。

大阪の未来を変えられる力を持っているのは住民の皆様なのです。

A nighttime photograph showing a view of a river, likely the Doori River in Osaka. Several people are walking on a bridge or promenade in the foreground. The water reflects the colorful lights from the surrounding city, creating a shimmering effect. The scene is peaceful yet vibrant, capturing the essence of a city at night.

大阪維新の会
中央特別区政策委員会

な

んでもありまっせ 中央区

に

ぎわいと人情のまち 中央区

わ

くわくゲートウェイシティ 中央区

なんでもありまっせ 中央区 にぎわいと人情のまち 中央区



中央特別区は中央区・天王寺区・西区・浪速区・西成区から成っています。

大阪城や道頓堀、国立文楽劇場等の世界、日本国中から人が集まる観光地・文化施設が多くある中央区。

四天王寺や天王寺七坂などの歴史を感じる名所や、学校も多くあり大阪有数の文教区である天王寺区。

水路を生かした大阪の「水の回廊」の中心を担い、堀江や新町等若者が集い活動する西区。

通天閣やオタロードを含む日本橋等の「大阪カルチャー」の代表格が揃う浪速区。

バックパッカーや学生達の観光地への拠点へと変貌を遂げ、なによりも大阪の「The下町(したまち)」西成区。

他にも、ジュニアの世界大会が行われている西区の靱公園のテニスコートや、浪速区の旧大阪府立体育館、西成区のさくら公園にあるサッカー場等のスポーツ施設があり、各百貨店やなんばパークス、上本町YuFuRa、道具屋筋やアメリカ村、日本橋の電気屋街など大阪内外から人が集まる商業施設・商業地も中央特別区にはあります。

少子・高齢時代を目前に迎えるに当たり、全国の自治体が熾烈な住民獲得の動きがある中で、「安心・安全で人にやさしいまち、すべての人が暮らしやすいまち」を作るのが大前提となってきます。

中央特別区マニフェストの理念(3/3)

この中央特別区マニフェストは、その前提を踏まえつつ、かつ構成する魅力あふれる5区それぞれの特性を活かしながら、大阪経済・観光の牽引役として日本国内外から人の集まる楽しいまち、人情にあふれるまちであるとともに、世界に向けて大きく開かれた**大阪のゲートウェイ(玄関口)**として大阪全体を支える、文字通り「中央区」として責任ある成長を遂げることを目指したものです。

それが私たちの考える

わくわくゲートウェイシティ中央区 です。



1 西成地区を区行政の中心へ

2 次世代型交通アクセスの実現へ

3 世界に誇れる日本一の文教都市へ

中央特別区の3つの目玉政策①<西成地区を行政の中心へ I >

現在の役所はそのまま使います



住民への行政サービスや役所のご利用は
現在と何も変わることなくご利用できます。

中央特別区の3つの目玉政策①<西成地区を行政の中心へⅡ>

本庁機能および区議会は西成区役所を利用します

中央区の行政の庁舎としては、他の区役所と比較して建築年数が浅く、規模が大きく地下鉄四つ橋線岸里駅直結の西成区役所を当面利用します。



中央特別区の3つの目玉政策①<西成地区を行政の中心へⅢ>

「いちょう(移庁)作戦」 将来、新区庁舎へ移転します

5区の中心部である「JR新今宮駅周辺」は戦後より商業施設としての手つかずの地域で、唯一再開発が可能な地域です。

なにわ筋線延伸と並行して商業施設と共に「新区庁舎」を将来「いちょう(移庁)」することで、新しい大阪の「顔」となります。

現在も外国人宿泊客が多く利用する西成地区は「ゲートウェイ大阪」に相応しい国際的な「おもてなし」ができる「まち」となります。



中央特別区の3つの目玉政策①<西成地区を行政の中心へⅣ>

あいりん地域の課題は？

戦後の高度成長期を支えた労働者が、この地域に全国から職を求め集まった。1950年代から1970年代に高度成長期のピークを終焉に、労働者も高齢化してゆき第二の故郷としてこの地に住みついた。また、仕送りのために重労働の結果、家族を故郷に残しこの地で病床に臥せた方々も多い。

近代歴史の狭間で日本の高度成長を支えた労働者の方々の問題や、高齢化での生活保護の問題は、当該地域だけの問題ではなく、当時の国策に遡り、国政に問う時期を招いている。

大阪市や大阪府だけの課題ではなく、日本の戦後政策の下に先送りにされてきた課題であることから、本稿の中央特別区のマニフェストとは分離して、特別地域として課題解決を行うべきである。

しかしながら、大阪都構想に於いては分離し得ない事項は、当該地域住民の皆様方による協議を尊重しながら、2014年12月の西成区区政会議の結果を重んじ、課題解決を進めて行くことが肝要です。

基礎自治体だけの課題ではなく、市・府・国で対応すべき課題であります。

LRT(次世代型路面電車システム)の導入

都市部における公共交通機関の利用促進、中心市街地の活性化、都市環境への負荷軽減、さらには、高齢者を始めとする移動困難者の移動の利便性を確保するため、人と環境に優しい交通システムとして、**LRT**の整備を推進しています。



国土交通省HPより



LRT導入支援策

■LRTプロジェクト

LRTの整備を推進する地域で構成される協議会が策定する「LRT整備計画」に基づく事業に対し、関係部局が連携して、総合的に支援する「**LRTプロジェクト**」を平成17年度に創設しました。

【制度の目的】

LRTの整備に向けた地域の取り組みを推進することにより、人と環境にやさしい都市基盤施設と都市交通体系の構築、利用しやすく高質な公共交通ネットワークの整備、さらには、生き生きとした魅力ある都市の再生を図るものです。

中央特別区の3つの目玉政策②<次世代型交通アクセスの実現へ Ⅲ>

国土交通省HPより



中央特別区の3つの目玉政策②<次世代型交通アクセスの実現へ IV>

国土交通省HPより

L R T プロジェクト

～まちづくりと連携したLRTの導入促進による環境にやさしく利用者本位の都市交通体系の構築～

LRTプロジェクト

国土交通省(都市局、道路局、鉄道局)、警察庁の
連携のもと、LRTの整備に対して総合的に支援

LRTプロジェクト推進協議会の設置

事業者

自治体

有識者・NPO

国(運輸局、整備局)、公安委員会

合意形成と計画策定

計画について一体的・総合的に支援

- ◇人と環境にやさしい都市基盤施設と都市交通体系の構築
- ◇利用しやすく高質な公共交通ネットワークの整備
- ◇生き生きとした魅力ある都市の再生

<総合的支援のメニュー>

①ハード整備に対する支援

OLRT総合整備事業

次の各支援メニューによる一体支援

- ・低床式車両その他LRTシステム構築に不可欠な施設の整備を行う鉄軌道事業者に対する補助(鉄道局)
- ・路面、路盤、停留場の整備支援(道路局、都市局)
- ・総合的な都市交通の戦略に基づくLRTの施設(車両を除く)の整備に対して包括的に支援(都市局)
- ・道路管理者による走行空間の整備 等

② 速達性向上・輸送力増強

- ・道路と軌道の状況に応じた最高速度制限の検討
- ・運行管理システムの改善、・車両長制限見直し 等

③ 利便性の向上

- ・ICカード導入、・駅前広場など交通結節点整備
- ・鉄道線への直通運転、・片側敷設と歩道等との一体整備 等

④ まちづくりとの連携

- ・LRT関連事業の一体実施
(社会資本整備総合交付金等を活用した駅周辺/中心市街地活性化事業等)

⑤ 利用促進

- ・P&R駐車場・駐輪場の整備、・バス路線のフィーダー化、
- ・トランジットモール等の社会実験 等

中央特別区の3つの目玉政策②<次世代型交通アクセスの実現へ V>

LRTの整備等に対する総合的な支援スキーム

地方公共団体向け

〔公設部分
事業者への間接補助 等〕

社会資本整備総合交付金

<道路局、都市局>

LRTの走行空間（走行路面、停留所等）、施設、車両の整備、ICカードの導入等に対し総合的に支援

国費率：国 5.5/10等

【交付対象者】地方公共団体等

事業者向け

地域公共交通確保維持改善事業

<総合政策局、鉄道局>

LRTシステムの構築に不可欠な施設（低床式車両、制振レール、車庫、変電所等）の整備、ICカードの導入等に対して補助

補助率：国 1/3

【補助対象者】鉄軌道事業者

上下分離方式などさまざまな官民の役割分担によるLRT整備を総合的に支援



LRTの整備効果

①交通環境負荷の軽減

LRTは、環境負荷の小さい交通体系の実現に有効な交通手段です。

②交通転換による交通円滑化

都市内の自動車交通がLRTに転換されることにより、道路交通が円滑化されます。

③移動のバリアフリー化

低床式車両や電停のバリアフリー化により、乗降時の段差が解消されるなど誰もが利用しやすい交通機関です。

④公共交通ネットワークの充実

鉄道への乗り入れや他の公共交通機関(鉄道、地下鉄、バス等)との乗換え利便性向上、P&R駐車・駐輪場の整備を図ることで都市内交通の利便性が向上します。

中央特別区の3つの目玉政策②<次世代型交通アクセスの実現へ VII>

計画ルート

第一段階で恵美須町駅からなんば駅まで
開通させます。

順次天王寺駅から延伸して行きます。
天王寺～恵美須町間は天王寺動物園を
「通り抜け」することで新たな観光車両と
なります。



ストラスブール(フランス)

国土交通省HPより



©2009Google,Map Data©2009TeleAtlas

中央特別区の3つの目玉政策③<世界に誇れる日本一の文教都市へ>

文武両立できる子ども育成へ



天王寺地区には歴史と伝統がある公立小・中・高校があり、また私立の名門校も多く、区域以外からも文教地区である天王寺地区に住居を求める若い世代も多く、人気のある地域です。

今後当該区への大学誘致も含め、教育本来の国際社会にも対応できる次世代を丁寧に育み、中央区の教育拠点として取り組んで行きます。

勿論、他の地域との調整も鑑み、より一層の新教育の仕組みや、子どもたちが将来に輝く未来を目指せる文教都市としてのメルクマールになります。

<具体例>

- ・南海汐見橋線を活かした大学・国際学校の誘致を行います。
- ・各地区内の各種スポーツ施設を活かした各年代のスポーツ大会の誘致の促進を行います。
- ・2020年の東京オリンピックに活躍できるジュニア育成の強化を行います。
(西区鞆公園で毎年開催テニスの世界スーパージュニアテニス選手権大会など)

- ★1 歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ
- ★2 世界に誇れる日本一の「文教都市」へ
- ★3 より便利で安心できる住みやすいまちへ
- ★4 「“育・働”隣接のまち」の実現へ



- ★5 すべての人が暮らしやすいまち

歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ

豊かな**歴史と文化**の息づく情緒あふれる文化都市・大阪の魅力を向上させるとともに、「食いだおれ・遊びだおれ」のまち・大阪の中心として、**食べて遊んで楽しくなんでもそろろう**「大阪文化にふれられるまち」として、世界に誇れる観光都市へ成長していきます。

①情緒あふれるまち並みの形成



②若者からお年寄りまで楽しめる「おもてなし」のまちづくり

③産業振興とイベントの充実

④西成地区の官庁街化



歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ

<目指すべき将来像①>情緒あふれるまち並みの形成

現状・課題

- 歴史的建造物や文化施設が多く存在している。
- 現在も祭り等の伝統行事が通年で行われているが参加者の高齢化が進み、若手の担い手が不足している。
- 歴史的史跡や文化施設に対しての保存活用意識が低い。



政策

- 大阪城や四天王寺をはじめ、数多く残る歴史的史跡の保存をすすめます。
- 国立文楽劇場や新歌舞伎座など、既存の文化施設の有効活用をはかります。
- 地元神社や地域の祭りを保存し、継承します。
- 今まで以上に観光資源化することで、人・力・金を呼び込む。

歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ

<目指すべき将来像②>

若者からお年寄りまで楽しめる「おもてなし」のまちづくり

現状・課題

- 国内外から観光客が増加している。
- 大阪の魅力についてのPRが不足している。
- 多言語対応の整備が不足している。



政策

- 「食文化の発祥と集積のまち大阪」の魅力を、全世界に向けてPRするとともに、関西国際空港へのアクセス強化により、海外からの観光客を増やします。
「Cool! でCawaii大阪」へ。
- 居心地のよい集まりやすい憩いの場を充実させていきます。
- 多言語対応できる「おもてなし人材」の育成をすすめます。

歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ

<目指すべき将来像③>産業振興とイベントの充実

現状・課題

- 大阪観光局が立ち上がり、成果は出てきている。
- イベントの効果が一過性のものとなっている。
- 商店街の衰退が進んでいる。



政策

- 大阪観光の中心として観光産業の振興をはかります。
- 商店街の活性化により、活気ある大阪の象徴にします。
- FE(電気自動車)レースの開催など、区民一体型のイベントの充実をはかります。
※フォーミュラレースの開催
- 継続的な効果のあるイベントを実施します。
- OGC(大阪ガールズコレクション)やジャパンガールズエキスポの開催・誘致

歴史と文化の息づく活気ある大阪の象徴へ

<目指すべき将来像④>西成地区の官庁街化

現状・課題

- 中央区の行政の庁舎としては、他の区役所と比較して建築年数が浅く、規模が大きく地下鉄四つ橋線岸里駅直結の西成区役所を当面利用します。

政策

- 西成地区を行政の中心に生まれ変わらせます。
- なにわ筋線延伸と並行して商業施設と共に「新区庁舎」を将来「いちょう(移庁)」することで、新しい大阪の「顔」となります。

世界に誇れる日本一の「文教都市」へ

歴史と文化のまち・大阪で、地域の将来を支える子どもたちのために、少子化の進展するなか一層の**教育の充実(質の向上)**をはかるとともに、**将来のための投資**を促進することで、グローバル時代に活躍できる人材を育成していきます。

①教育の質の向上

②グローバル人材の育成

③青少年の健全育成



世界に誇れる日本一の「文教都市」へ

<目指すべき将来像①>教育の質の向上

現状・課題

- 学校により児童数生徒数の偏りがある
- 学校により学力差が顕著である
- 中学校給食は冷たくおいしくない
- 食(栄養)に対しての意識が低い
- 学校によりクラブ活動に偏りがある
- 子ども達に夢をいだかせる授業が少ない



政策

- 学校の適正配置をすすめ、子どもたちにきめ細やかな教育を提供します。
- 公募校長制度の充実等により特色ある学校づくりを推進します。
- 学校給食を自校方式、センター方式、親子方式等の導入を精査し併せて食育を推進します。
- クラブ活動指導者に外部人材を登用できるようにします。
- 企業家やアスリート等による特別授業を実施します。

世界に誇れる日本一の「文教都市」へ

<目指すべき将来像②>グローバル人材の育成

現状・課題

- 今の英語教育では文法や受験英語に偏り英語を話せる人材が少ない。
- 英語を話せない事により外国人とのコミュニケーションがはかれない。
- 文教地域であるにもかかわらず大学が少ない。
- 校務に取られる時間が多く子どもたちと向き合う時間が少ない。



政策

- 英語によるディベートスクール事業の実施や、ネイティブスピーカー教師の増員により、子どもたちがより充実した英語教育が受けられる環境をつくれます。
- 留学生との交流事業、文化の相互理解をはかります。
- 大学や国際学校の誘致をすすめます。
- 学校教育や校務支援のICT化をすすめます。

世界に誇れる日本一の「文教都市」へ

<目指すべき将来像③> 青少年の健全育成

現状・課題

- DV、引きこもり、いじめ等がある現状を如何に打開するか。
- 命の大切さ、親や目上の人に対しての感謝・尊敬の念を如何に教えていくか。
- 子どもたちが思いきり遊べる場所が少ない。

政策

- 家庭、地域、学校が一体となって子どもたちを見守り、まちの活性化をはかります。
- スポーツを通じて人間力の強化や子どもたちの生きる力の育成をはかります。
- 遊びを通じて子どもたちが生きる力を養うプレーパーク(冒険・遊び場)を設立します。

より便利で安心できる住みやすいまちへ

現在の交通ネットワークに加え、**交通アクセスの再整備**を行うことで、都市としての魅力を高め、世界中からあらゆる人を呼び込めます。

また、まちとしての**防災・防犯機能**を高め、住民にとってより便利で安心できる住みやすいまちづくりをすすめていきます。

①鉄道ネットワークの再構築

②民間の力を利用した再整備

③防災・防犯機能の向上



より便利で安心できる住みやすいまちへ

<目指すべき将来像①>鉄道ネットワークの再構築

現状・課題

- 大阪市の中心部にある為、鉄道ネットワークは充実しています。
- 今後、地下鉄『新線』の導入も発表されています。
- 新たな路面電車の調査も始まっています。
- 南海汐見橋線が充分活かされていません。



政策

- 「なにわ筋線」が導入され、関西空港利用者の利便性が向上すれば中央区が大阪の玄関口となります。
- 世界中の人・モノ・情報が集まり、産業振興・雇用の創出など経済成長を実現させます。
- 次世代路面電車「LRT」の導入により、低コストで、人に優しく利便性の高い交通アクセスを普及します。
- 「南海汐見橋線」を活かした沿線未利用地再生等のまちづくりをすすめます。

より便利で安心できる住みやすいまちへ

<目指すべき将来像②> **民間の力を利用した再整備**

現状・課題

- 区域の北側に土佐堀川、西側に木津川、中央の南北軸に東横堀川、中央の東西軸に道頓堀川が周回する『水の回廊』が形成されています。
- 道頓堀川では、とんぼりリバーウォークが整備されています。
- 西道頓堀川の船着場付近は左岸・右岸とも整備されているがそれより西方面は整備が遅れている。
- 河口の未利用地、中之島ゲートエリアでは水都大阪フェス等のイベントが開催されているが、単発のイベントで水辺の賑わい創造が活かされていない。
- 多くの便利な駅があるが幾つかの駅前周辺が閑散としている。まちづくりに特性を活かし切れていない。

政策

- 民間の力を活用し、「水都大阪の中心、水の回廊や中之島周辺エリア等」の再整備を行います。
- 従来の鉄道ネットワークを活かしたまちづくりとしての駅前周辺の再整備を行います。

より便利で安心できる住みやすいまちへ

<目指すべき将来像③>防災・防犯機能の向上

現状・課題

- 西道頓堀川は四ツ橋筋の西側1.3km区間で、昭和30年代に建設され老朽化が進むコンクリート防潮堤構造。地盤が低く、満潮時には地盤高が水位より低い0m地帯。満潮時に津波が来れば、付近一体が浸水する可能性が大きい。
- 護岸際の河川用地を不法占拠・不法利用する状況が散見される。
- 上町断層帯に位置する為、直下型地震時の被害が甚大である。
- 昼夜間人口比率は237%で被災時の帰宅困難者の問題が多大である。
- 地下鉄や地下街が多い為、浸水時の避難問題が心配される。
- 歴史あるまちの為、密集市街地、木造住宅、狭隘な道路、防火防災が課題である。
- 街頭犯罪率が非常に高い。

政策

- 防潮堤の増強をすすめます。
- 参加体験型の被災訓練の実施等、防災教育を充実させます。
- 深夜帯の青色パトカーの運用を強化します。
- 防犯カメラや街灯を増設します。

「“育・働”隣接のまち」の実現へ

子育てしやすく、働きやすい「“育・働”隣接のまち」を実現するために、地域全体での子育て支援をすすめるとともに、さまざまな子育て優遇政策を実施します。

働くお父さん・お母さんにとって、**日本で一番子育てのしやすいまち**をめざします。

①働くお父さん・お母さんの支援

②子育て中・妊娠中の親への支援

③子育ての質の向上

④子どもの安心安全



「“育・働”隣接のまち」の実現へ

<目指すべき将来像①>働くお父さん・お母さんの支援

現状・課題

- 共働き世帯の増加
- 現役世帯の転入の増加
- 核家族の増加(親族が子どもを見られない環境の増加)
- 子育て支援環境の減少(地域との繋がり希薄化)
- 未就学児の増加
- 家族の在り方の多様化(共働き、ひとり親、単身赴任など)
- 都会型子育てによる危険地帯(道路等)の増加
- 子育て世帯の孤立感・育児不安対策の不足

政策

- 待機児童の解消をすすめます。
- 小規模保育事業(保育ママを含む)をすすめます。
- 放課後事業の時間延長・多様化に取り組めます。

「“育・働”隣接のまち」の実現へ

<目指すべき将来像②> **子育て中・妊娠中の親への支援**

現状・課題

- 共働き世帯の増加
- 現役世帯の転入の増加
- 核家族の増加(親族が子どもを見られない環境の増加)
- 子育て支援環境の減少(地域との繋がり
の希薄化)
- 未就学児の増加
- 家族の在り方の多様化(共働き、ひとり
親、単身赴任など)
- 都会型子育てによる
危険地帯(道路等)の増加
- 子育て世帯の孤立感・育児不安対策の
不足

政策

- 子育てスタート応援券などバウチャー制度
の充実をはかります。
- 予防接種の補助拡大をはかります。

「“育・働”隣接のまち」の実現へ

<目指すべき将来像③> 子育ての質の向上

現状・課題

- 共働き世帯の増加
- 現役世帯の転入の増加
- 核家族の増加(親族が子どもを見られない環境の増加)
- 子育て支援環境の減少(地域との繋がり希薄化)
- 未就学児の増加
- 家族の在り方の多様化(共働き、ひとり親、単身赴任など)
- 都会型子育てによる危険地帯(道路等)の増加
- 子育て世帯の孤立感・育児不安対策の不足

政策

- 保育士研修を充実させ、保育の質の向上をはかります。
- 長時間保育や日曜保育の実施をすすめます。

「“育・働”隣接のまち」の実現へ

<目指すべき将来像④> **子どもの安心安全**

現状・課題

- 共働き世帯の増加
- 現役世帯の転入の増加
- 核家族の増加(親族が子どもを見られない環境の増加)
- 子育て支援環境の減少(地域との繋がり
の希薄化)
- 未就学児の増加
- 家族の在り方の多様化(共働き、ひとり
親、単身赴任など)
- 都会型子育てによる
危険地帯(道路等)の増加
- 子育て世帯の孤立感・育児不安対策の
不足

政策

- 子どもの登下校時の見守りパトロールの
充実をはかります。

すべての人が暮らしやすいまちへ

今後、高齢化の進展により、福祉に対するニーズはますます高まっていくことが予想されます。**効率的で質の高いサービスの提供**により、すべての住民が安心して生活できるまちづくりをすすめていきます。

①年齢にかかわらず安心して暮らせるまちづくり

②すべての人が暮らしやすいまちづくり



| 区分 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 総人口（人） | 358,130 | 364,539 | 390,487 | 415,237 |
| 年少人口 （0歳～14歳） | 39,503 11.1% | 35,817 9.9% | 33,292 8.9% | 35,994 8.8% |
| 生産年齢人口 （15歳～64歳） | 260,141 72.8% | 258,171 71.0% | 257,754 68.8% | 281,452 68.9% |
| 老年人口 （65歳以上） | 57,551 16.1% | 69,489 19.1% | 83,455 22.3% | 91,313 22.3% |

※総人口には、年齢不詳人口が含まれているため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。
※年齢3区分別人口の構成比を算出するにあたっては、年齢不詳人口を含めていない。

| | | |
|------------------------|---------------------|--------------------|
| 人口〔H22〕 | | 415,237人 |
| 世帯数〔H22〕 | | 242,045世帯 |
| 世帯構成割合 | 単身世帯 (高齢単身除く) | 47.2% |
| | 高齢者単身世帯 | 15.7% |
| | 2人世帯 (高齢者夫婦世帯除く) | 14.1% |
| | 高齢者夫婦世帯 | 4.9% |
| | その他 (3人以上世帯) | 18.1% |
| 昼間人口〔H22〕 (昼夜間人口比率) | | 983,087人 (237%) |



すべての人が暮らしやすいまちへ

①年齢にかかわらず安心して暮らせるまちづくり

- 高齢単身世帯の増加に対応するため、これまでの地域活動との連携をはかりながら、「**新たな見守り体制**」を再構築します。
- **認知症の方も安心**して暮らせるよう、調査専任チームを立ち上げるなど、通報から調査までを的確に行う仕組みをつくります。
また、行方不明の届出を受けた認知症患者の早期発見のため、情報活用制度を立ち上げます。
また、高齢者施設(福祉住宅・介護センターなど)の適正化をはかります。
- 子どもたちへの「**貧困の連鎖**」を防止するため、中学生の塾代バウチャー配布、学習サポーターの配置を充実します。
- 企業家や商店主による特別講座で夢を持つことや生き方・働き方を学ぶ機会を作ります。

| 区分 | | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 高齢者のみの世帯(世帯) | | 24,472 | 32,163 | 44,648 | 49,816 |
| | 高齢単身世帯 | 15,498 | 21,416 | 32,737 | 38,052 |
| | 高齢夫婦世帯 | 8,974 | 10,747 | 11,911 | 11,764 |

※高齢単身世帯とは、65歳以上の高齢者一人の一般世帯。

※高齢夫婦世帯とは、夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯。

すべての人が暮らしやすいまちへ

②すべての人が暮らしやすいまちづくり

- 歩きたばこを禁止し、路上近年の禁止エリアを拡大します。現在大阪市では、御堂筋及び大阪市役所・中央公会堂周辺を「路上喫煙禁止地区」に指定し、罰則（過料1000円）を適用しています。区民の安心安全及び快適な生活環境を確保するため、禁止エリアを拡大します。
 - 駐輪場の設置等により放置自転車対策をすすめます。平面で場所が選定できない場合、地下駐輪場を設置します。
 - 自転車の運転ルールの徹底により、運転マナーの向上をはかります。すべての中学校での警察による指導講座を行います。
 - スポーツ施設の充実により、住民の健康の維持向上に努めます。区民スポーツセンターは内容を充実し、区民満足度を上げます。
 - 駅前のバリアフリー化など、障がい者・高齢者等すべての人が住みやすいまちをつくります。
 - 多言語対応可能な医療機関の設置をすすめます。協力病院と連携し、ICT活用等を研究します。また外国人医師を研修生として迎えます。
-
- 区民一体となったイベントの実施により、住民同士が顔を合わせる機会を増やすとともに、新住民を受け入れる環境整備や地域活動の担い手を育成します。地域活動協議会を活用し、小学校単位のイベントにPTA・PTAのOB、地域、子ども会等多くの人々が参加できる体制を作ります。
 - 区民の応募によるグループ活動支援事業を実施します。その選考については区民が行うなど、区民の新しい公共に対する意識向上を図ります。
 - 現在の区役所を出張所として活用するとともに、民間サービスの範囲拡大により、今まで以上に身近で便利な住民サービスを実現します。

| 行政区 | 転入届(件) | 転出届(件) |
|--------|--------|--------|
| 中央区 | 11,847 | 8,540 |
| 西区 | 8,391 | 6,478 |
| 天王寺区 | 5,047 | 4,254 |
| 浪速区 | 8,887 | 6,538 |
| 西成区 | 6,184 | 4,987 |
| 中央特別区計 | 40,356 | 30,797 |

住民基本台帳事務年計表より
(平成26年3月末日現在)

分野別課題解決

★1 保健・医療

★2 福祉

★3 教育・子育て

★4 住宅・土地の利用・駅前開発・水辺の活用

★5 道路・交通

★6 防犯・防災

★7 環境

★8 文化・コミュニティ

★9 産業政策

分野別課題解決①<保健・医療>

病院・診療所については、大病院も多く、医療環境は整っている。

課題

- がん検診など、各健診の受診率が低い
- 生活習慣病が多い
- 国民健康保険料の未収が多い
- 結核罹患率が高い地域がある
- 生活保護受給者の重複受診
- 外国からの旅行者・企業人の医療

要因

- 単身生活者が多い
- 感染に気付いていない
- 治療の中断・治療中の転出
- 生活保護受給者の増大

解決の方向性

- 医療機関・関係団体と連携し、健康についての啓発イベントを実施する
- 国民健康保険料については、口座振替を推進する
- 結核については、検査の実施と、薬の服用補助を確実に行う
- 生活保護の医療機関について、確認制度を実施
- 民間との協力も視野に入れ、英語等に対応できる病院をつくる

分野別課題解決②<福祉>

少子高齢時代を迎え、福祉課題は全年代に渡り、多種多様化されることが見込まれる。

課題

- 老人の孤独死
- 老人単身(夫婦)世帯の増加
- 買い物難民
- 高齢者施設(介護センター・福祉住宅等)の少なさとばらつき
- 子どもの貧困
- 認知症・身体障がい者の孤独死・虐待
- 生活保護の不正受給
- 高齢者・若者の受給増加

要因

- 老人単身世帯の増加
- 地域との繋がり希薄化
- 平均寿命延伸による高齢化
- 家族の繋がり希薄化
- 高齢化により買い物に行く事が困難
- 小規模店舗(商店街)の衰退
- 土地価格の影響により不足している区がある
- 母子(父子)家庭の増加
- 世代にわたっての貧困
- 生活保護ビジネス
- 過少申告
- 生活保護への抵抗感の薄れ
- 派遣労働・非正規雇用の増大
- 年金受給額、所得額との差

解決の方向性

- 地域福祉コーディネーター体制構築だけでなく、例えば玄関にセンサーを取付け、一定時間玄関が開かなければ、行政に知らされる等の体制の構築
- 社会的孤立に陥らない様これまでの地域活動とも連携を図りつつ「新たな見守り体制の再構築を行う」
- ①宅配サービス②移動販売③店への移動手段の提供、を顧客困り込みを望む企業(スーパー・コンビニ)へ協力を要請し、企業への助成を行う
- 中央区内未利用地の積極的な活用
- 乳幼児期からの早期対応、子どもへの無料学習支援・奨学金の充実、親の就労支援・労働環境支援
- 要援護者名簿を作成し、地域で管理。行政と地域の連携の強化
- 調査専門チームの立上げ、通報から調査をスピーディーにかつ的確に行う仕組みを作り、民生児童委員とも連携する
- 社会的孤立や長期受給に陥りやすい事から、社会貢献プログラム等を提供し、社会的繋がりを持てるようにする、早期の社会復帰支援

分野別課題解決③<教育・子育て>

中央区全体としての教育・子育ての課題は大阪全体の課題と重なる点が多く、個別の課題は学校単位・地域単位で細やかな解決を進めます。中央区全体としては、現在ある教育環境を活かし、より充実したよりよい教育・子育て環境を作りあげる方向性で解決していきます。

課題

- 未就学児童の増加
- 共働き家庭の増加
- 都会型子育てによる危険地帯(道路等)の増加
- 子育て支援の不足
- 青少年の健全育成取組の不足
- 学力の低下
- 子育て世帯の孤立感・育児不安対策の不足
- 学校配置の最適化の促進

要因

- 都会型生活の利点を生かし、働きながら育児しやすいまち
- サポートの充実した子育てしやすいまち
- 子どもたちの笑顔があふれる安心・安全なまち
- 親・子ども共に優しいまち
- 仕事、子育て方針を親が選択できるまち

解決の方向性

- 小規模保育事業(保育ママを含む)をすすめます。
- 放課後事業の時間延長・多様化に取り組みます。
- 子育てスタート応援券などバウチャー制度の充実をはかります。
- 予防接種の補助拡大をはかります。
- 保育士研修を充実させ、保育の質の向上をはかります。
- 長時間保育や日曜保育の実施をすすめます。
- 子どもの登下校時の見守りパトロールの充実をはかります。

分野別課題解決④<住宅・土地の利用・駅前開発・水辺の活用><1/2>

24区各区で行っていた個別施策を中央区全体として一体化し、有効利用・活用を進める。

課題

- セーフティネットとしての福祉住宅の整備促進
- 密集市街地対策
- 未利用地の活用

要因

- 超高齢化、少子化、経済の低迷などにより、生活保護や母子家庭、独居老人などの増加
- 多くの密集市街地は、それぞれの過去からの経緯がある。例えば、戦災を免れたものや戦後に建てられたままの物など。また、個人所有や借家など
- これまでの24区体制では、区ごとに空き地の活用もその区を最優先としていた。そのため、その区で利用が無ければ未利用地として処理することが多く、区によっては空き地が多く存在することになった。

解決の方向性

- 弱者、生活困窮者の為に良質な住宅を提供することは重要、そのためには今ある市営府営住宅を良質な住宅に改善するとともに、民間住宅の活用や建設も含めた検討を行う。
- 住宅密集地の解消対策は、地権者など様々な問題が複雑に絡み合い、なかなか前に進みにくい。そこで、災害に強い住宅への取り組みを最優先にすべきである。たとえば耐震対策や防火対策などをそれぞれの住宅に施し、徹底した安全対策を行うことにより災害からの被害を最小限にとどめる。
- 中央区になれば区全体として新たな土地活用が生まれ、未利用地の有効活用が図られる。しかし、問題点は、現時点で財産承継の問題や売却計画があるものに対して今後どう調整を図るかが問われる。

分野別課題解決④<住宅・土地の利用・駅前開発・水辺の活用><2/2>

課題

- 新今宮駅前の開発
- 南海汐見橋駅の活性化
- JR天王寺駅北側にある密集市街地の取り組み
- 水の回廊の早期整備
- 川口地区にある土地の活用

要因

- 駅周辺には老朽化した施設や空き地が存在する。
- かつてこの沿線にあった工場等の撤退により利用者が激減、沿線には、多くの空き地がある。
- 天王寺駅周辺は古い建物が取り壊され近代化された、そのなかでこの地域は取り残され路地や長屋がある。
- 護岸対策と予算不足
- この地にあった国税施設の撤去と河川の一部埋め立てによる空き地。

解決の方向性

- 多くの就労に取り組む組織団体や住民などと話し合い、街の活性化と美化に向けた取り組みを行う。
- 沿線にある空き地を活用、たとえば、空き地に大学や商業施設などを誘致するなど、もちろん南海電鉄とも調整を図りこの路線を有効活用する。
- この場所を再開発して商業ビルなどとし周辺同様に近代的な街並みとする計画もあるようだが、逆の発想で、昔の街並みを残し旧市街地として整備することがより魅力ある街となる。もちろん前述の密集市街地対策で述べたように、徹底した安全対策を施すことが重要である。
- 大阪の中心市街地を流れる堀川を整備し、水都大阪の魅力を国内外に発信し観光集客の手段として、また住民が憩い楽しめる場とするための水の回廊の整備が行われている。しかし、まだまだ未整備の部分がある。特に、中央区内にある、土佐堀川、木津川、西道頓堀川、東横堀川これらの河川整備を早急に進め、水都大阪の顔である水に回廊を広域に強く申し入れ早期に完成させる。
- これも広域の問題と国・府・市の調整が必要だが、この地を活かし、大阪湾から安治川を上る中型船と水の回廊を巡る小型船との乗り換えターミナル機能とマリーナ機能も持たせた場とする。

分野別課題解決⑤<防犯・防災>

昼間人口比率が高い地域なので犯罪発生率も高く、住む人・訪れる人に安全・安心を提供していくことが最も必要である。また防災対策においても同様である。

課題

- 街頭犯罪がワースト1
- 違法薬物問題
- 貧困ビジネス
- 直下型地震の被害
- 密集市街地
- 災害時の帰宅困難者対策
- 河川の氾濫被害
- 地下鉄、地下街の水没

要因

- 繁華街、ビジネス街が多い
- 放置自転車、無施錠の自転車が多い
- 危険ハーブ、違法薬物が流通しやすい
- 生活保護受給率が高い(受給者が多い)
- 上町断層帯
- 古い木造住宅、狭隘道路
- 集客施設が多い
- 古い防潮堤の改修が進んでいない
- 地下鉄、地下街が充実している

解決の方向性

- 防犯カメラ、街灯の増設
- 駐輪場の整備
- 深夜帯の青色パトカーの運用
- 地域自主防犯活動の実施
- 危険薬物についての教育
- 不燃化の促進、区画整理
- 高潮、津波、水害対策
- 被災訓練の実施

分野別課題解決⑥<環境>

環境意識・モラル意識を高め、人が住みたい・訪れたいと思えるまちを目指す。

課題

- 津守下水処理場での臭気汚染
- 河川の浄化が進んでいない
- 不法投棄ごみの対応が不足
- 木造の老朽家屋の増加
- 老朽化した空き家の増加
- 落書きの対策不足
- 放置自転車、路上違反簡易広告物の対策不足

要因

- 環境浄化に対する意識が不十分
- モラルの低さ

解決の方向性

- 下水処理システムの対策
- 行政によるゴミ撤去
- 老朽家屋・空き家対策強化
- モラル教育、環境意識の向上

分野別課題解決⑦<文化・コミュニティ>

豊かな歴史と文化の息づく情緒あふれる文化都市・大阪の魅力を向上させる。

課題

- 大阪城・四天王寺をはじめ大阪一社寺が集積し、神社仏閣の間を抜ける古い坂道が昔の姿を今にとどめるなど歴史的史跡が数多く残り、また国立文楽劇場・新歌舞伎座や大衆劇場・紙芝居博物館・オタロード等文化施設も充実し、今昔がバランス良く融和した歴史と文化が息づく地域をいかに保存・活用していくか。
- 地元神社や地域の祭りをいかに保存していくか。
- 古くからの住民とマンション等の新住民とのコミュニティが難しい。

要因

- 歴史的史跡や文化施設に対しての保存・活用意識が低い。
- 参加者の高齢化が進み若手の担い手不足。
- 既存の地域団体等は、主体となる人手が減少しているにもかかわらず閉鎖的な部分が有り新住民を受け入れにくい組織になっている。

解決の方向性

- 今まで以上に観光資源化することで人・金を呼び込む。
- 地域の伝統文化を継承するため若手の担い手の発掘・育成。
- 地域行事等で新旧の住民が顔を合わせる機会を増やす等、新住民を受け入れる環境整備や地域活動の担い手を育成する。

分野別課題解決⑧<産業政策>

世界と繋がる成長戦略。

課題

- 「更なるインバウドの創生」
2020年の東京オリンピックに向けて大阪への更なるインバウンドを図ります。
- IRの誘致や、FEレースそして世界万国博覧会を2025年に大阪に誘致して行きます。
- 中小零細企業の自立、再生

要因

- 「人、もの、投資を大阪へ2020年のインバウンドは6500万人を目指し「世界とつながる成長戦略」を目途とします。
- 現状の中央区でのFEレースには交通・道路インフラに経費が掛かる。
- 消費増税による買い控えや中小零細企業の跡継ぎの問題を解決しなければなりません。

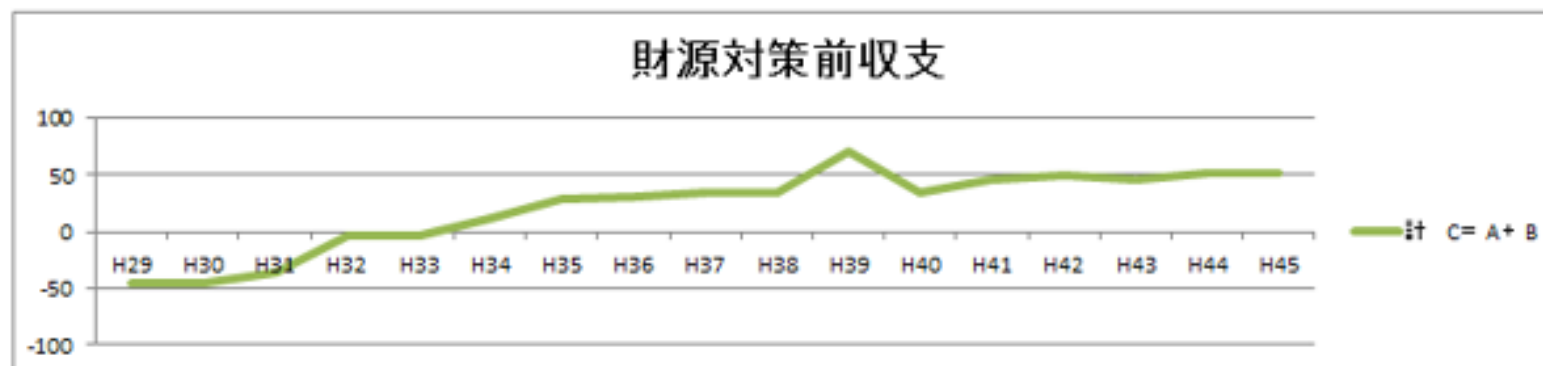
解決の方向性

- 2015年のシンボルイヤーを契機に観光戦略を促進します。昨年の2600万人のインバウンドのリピーターを増加させる魅力あるおもてなしが必要。
- IR、FEレース、万博誘致をバイエリヤに集約することでインフラ整備のインシヤルコストの軽減を行います。
- 日本でしかできない「匠」を企業戦略にします。
- ロボット(アンドロイド)の開発等。

「中央区」の財政シュミレーション

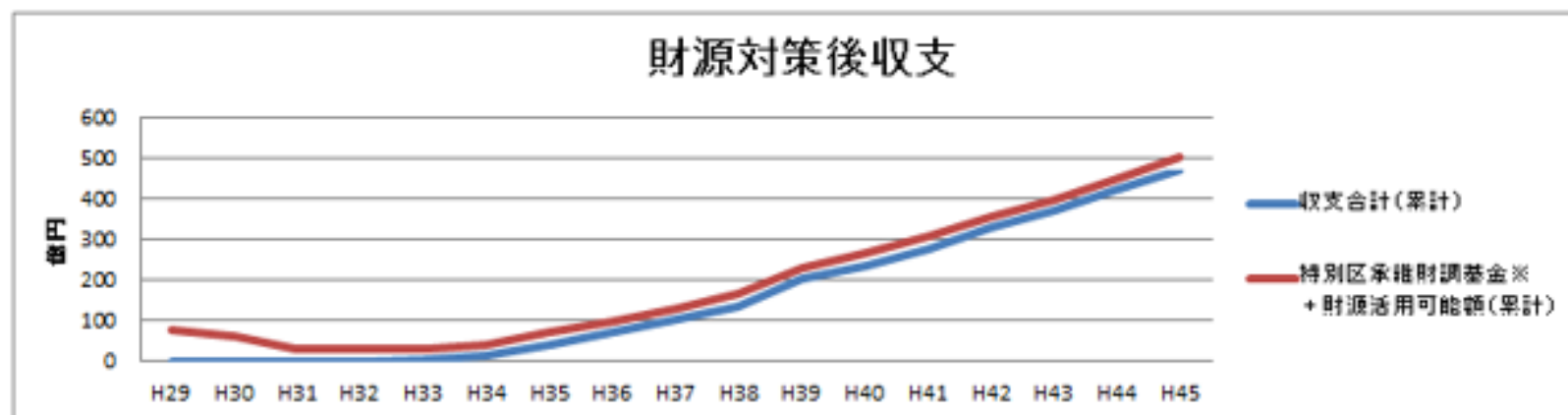
出典：第17回大阪府・大阪市特別区設置協議会資料

H31年度まで約30億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
H45年度の単年度収支では、約51億円のプラス



財源対策後

- ・収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ・H33年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約50億円となる



※特別区に承継した財政調整基金は約135億円
関西電力(株)株式(出資財産分)約19億円(簿価)

「中央区」の概況

出典: 平成26 年7 月23 日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

「中央区」は大阪市の中央部に位置しており、現在の西成区、中央区、西区、天王寺区、浪速区の5つの行政区が区域です。



【「中央区」の概況】

出典：平成 22 年国勢調査など

| | 「中央区」 | 現在の行政区 | | | | |
|--------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | | 西成区 | 中央区 | 西区 | 天王寺区 | 浪速区 |
| 面積 | 30. 60km ² | 7. 35km ² | 8. 88km ² | 5. 20km ² | 4. 80km ² | 4. 37 km ² |
| H22 人口 | 415, 237 人 | 121, 972 人 | 78, 687 人 | 83, 058 人 | 69, 775 人 | 61, 745 人 |
| 人口密度 | 13, 570 人/km ² | 16, 595 人/km ² | 8, 861 人/km ² | 15, 973 人/km ² | 14, 536 人/km ² | 14, 129 人/km ² |
| 区制施行 | 2017 年予定 | 1925 年 | 1989 年 | 1889 年 | 1925 年 | 1925 年 |

「中央区」のすがた

出典: 平成26年7月23日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

「中央区」の区役所は、現在の西成区役所を予定しています。
区域にあるその他の現在の区役所は引き続き支所として使用され、窓口業務などを行います。



| 区役所 | 所在地 |
|-------|------------------|
| 西成区役所 | 大阪市西成区岸里1丁目5番20号 |

| 支所・出張所等 | 所在地 |
|---------|--------------------|
| 中央区役所 | 大阪市中心区久太郎町1丁目2番27号 |
| 西区役所 | 大阪市西区新町4丁目5番14号 |
| 天王寺区役所 | 大阪市天王寺区真法院町20番33号 |
| 浪速区役所 | 大阪市浪速区敷津東1丁目4番20号 |

【「中央区」区役所（西成区役所）の交通アクセス】

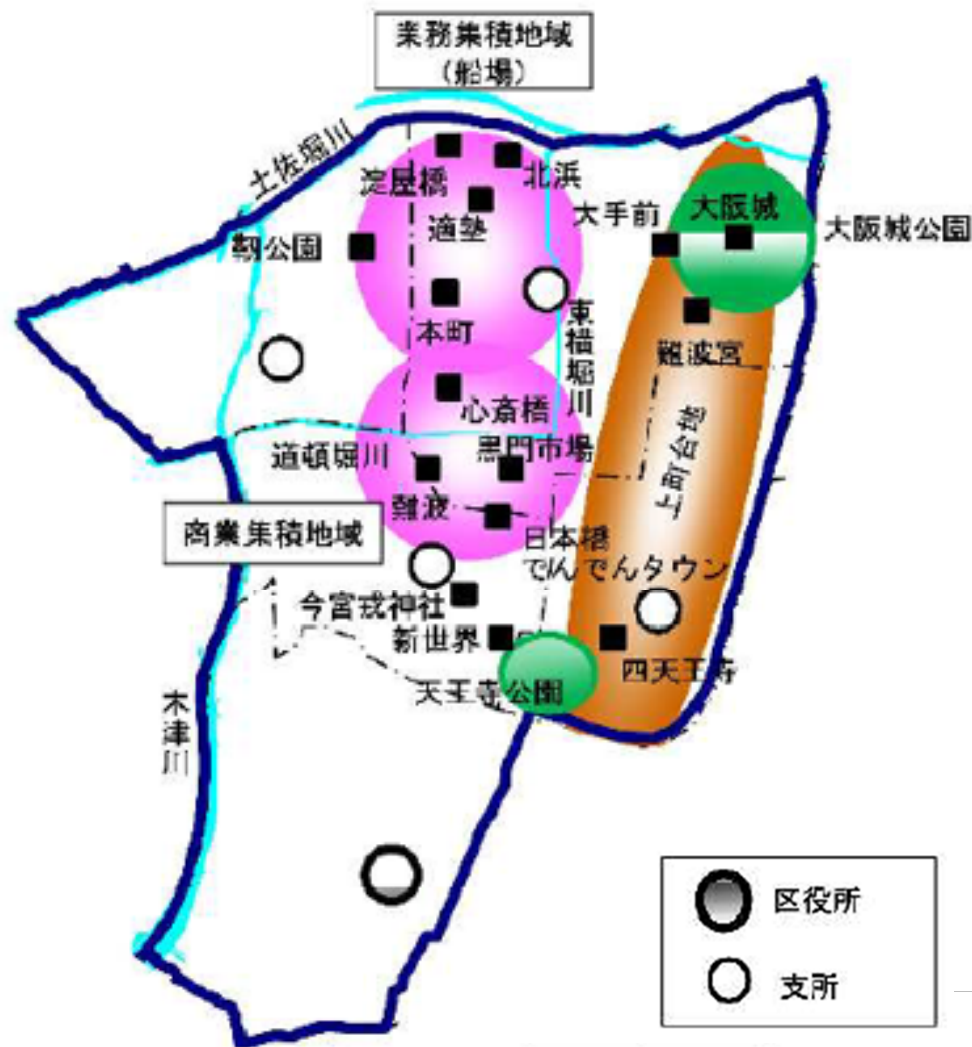
- 最寄り駅
地下鉄四つ橋線「岸里」駅すぐ
地下鉄堺筋線・南海本線・高野線
「天下茶屋」駅 徒歩5分
- 他の区役所からの所要時間※
中央区役所より23分 西区役所より19分
天王寺区役所より31分 浪速区役所より15分
(平均22分)

※電車・バス・徒歩による所要時間

「中央区」の状況(1/2)

出典: 平成26年7月23日

大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より



・「中央区」は、区の東部を上町台地が縦断し、西部は平坦な土地が広がり、また、区域の北側には土佐堀川、西側には木津川が流れ、中央には東横堀川と道頓堀川を合わせ4つの川が周回する「水の回廊」が形成されている、まさに「水の都・大阪」の中心部です。

・大阪城の正面・西側の大手前地区は、江戸時代には武家屋敷や奉行所が建ち並んでいた地区で、現在は大阪府庁や大阪府警察本部、国の出先機関などの建ち並ぶ官庁街、オフィス街となっています。

・さらにその西側に位置する「船場」地区は、かつて「天下の台所」として日本の商業の中心、町人文化の中心地であった地区ですが、現在でも、淀屋橋、北浜、本町などを擁し、証券、薬、卸商などの経済活動が活発なところです。

「中央区」の状況(2/2)

出典：平成26年7月23日

大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

- ・船場を南に下ると1日90万人規模の乗降客数を数える難波のターミナルがあり、北隣の心斎橋とともに一帯は、商店街、百貨店、飲食店街が広がっています。ここには劇場が数多くあり、歌舞伎や文楽、漫才、春には大相撲が興行されるなど、今も昔も上方文化の中心地です。難波周辺には、「浪速の台所」黒門市場や電気製品、最近ではサブカルチャーで有名な「日本橋でんでんタウン」などもあり、多くの買い物客で賑わっています。
- ・さらに、区域の南東に位置する天王寺・阿部野橋周辺も、JR、地下鉄、私鉄等の各線が集結する一大ターミナルとなっており、商業活動が盛んなところです。天王寺公園には美術館や動物園があり、また、その西側には通天閣のある新世界地区もあり、観光スポットのひとつになっています。
- ・その他にも、見所は数多く、難波宮跡や四天王寺、大阪城天守閣、適塾など歴史を感じさせる場所から、商都大阪の賑わいを象徴する十日戎などの祭、最近では、川沿いの歴史的建築物を船から眺める「水の回廊」クルージングなど、水都大阪を再発見する取り組みも盛んです。
- ・区域内の交通網としては、地下鉄7路線、JR3路線、私鉄9路線が通り、域内に計72駅が設置され、また、道路も、北の梅田から南の難波までをつなぐ大阪のメインロード・御堂筋をはじめ、南北方向に新なにわ筋、四ツ橋筋、堺筋、谷町筋、東西方向に土佐堀通、中央大通、長堀通、千日前通と、多くの主要道路の整備された、交通の利便性の極めて高い地域となっています。
- ・一方、都心でありながらも、区域内に大阪城公園や天王寺公園、靱公園などの大きな公園があり、人々の憩いの場となっています。
- ・また、大阪赤十字病院や国立病院機構大阪医療センターなどの総合病院が多く開設されています。

「中央区」の一帯は、古代、上町台地の中心地から西側の大阪湾に面する浜辺でした。上町台地の北部は、大和政権時の外港「難波津」の東にあたり、当時の物流の一大拠点であり、また、大化の改新後には、難波宮が造営され都がおかれしました。上町台地の中心部は、近世になると石山本願寺とその門前町として栄えました。その後、大坂城が築かれ、下町の船場には町人の町ができ、水運の利便も図られ、江戸時代には「天下の台所」といわれ大いに繁盛しました。現在の天満橋付近は「八軒家」と呼ばれ、京からの船着場として、また、高野参りや熊野詣の起点として賑わいを見せました。なお、上町台地南側には、聖徳太子が建立した四天王寺をはじめ、多くの神社仏閣が建設され、今もその姿を残しています。

一方、区の南部は古代、大阪湾に面する海浜地帯であり、漁労生活が営まれていました。その名残は、「入船町」や「今船町」など地名がかつてあったことや海からの幸をもたらす神である「戎様」を祀る「今宮戎神社」等からうかがうことができます。その後、江戸時代には、堺の発展に伴い、紀州街道が通じ、旅籠や商家の建ち並ぶ大阪の南口として賑いを見せました。

明治18年にわが国初の私鉄となった阪堺鉄道の開通を先駆けとして、鉄道網の整備が短期間に進みました。また、明治36年には天王寺公園と新世界一帯で「第5回内国勧業博覧会」が開かれ、これをきっかけとして、大阪はさらに近代化が進みました。

その後も御堂筋などの整備が進められ、淀屋橋から難波にかけての御堂筋沿いは大阪経済の中心となり、その東側には官公庁が集まる大手前などのオフィス街も形成されるなど、大阪の中心としての位置づけは変わることなく続いています。

「中央区」の歴史(2/2)

出典: 平成26年7月23日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

【区の沿革】

区域の中心部である当時の東・西・南の3区は、明治22年の大阪市制施行当初から大阪市に編入されました。その後、天王寺区域及び浪速区域が明治30年の第1次市域拡張時に、さらに大正14年の第2次市域拡張時に西成区域が大阪市に編入され、昭和18年の行政区再編を経て、「中央区」の形となりました。

【構成行政区の変遷（イメージ）】



行政に関する指標(1/2)

「中央区」の区議会議員定数は13 人になる想定で、議員報酬は3割カットすることにより現行の報酬より月額約400万円(新中央区計)の議員報酬削減を目指します。

| 現行区 | | 報酬月額 970,000 | 現行報酬月額(20%削減) 776,000 | 移行後報酬月額(30%削減) 679,000 |
|-------|------|-----------------|--------------------------|---------------------------|
| 区名 | 議員定数 | | | |
| 西区 | 2 | 1,940,000 | 1,552,000 | 1,358,000 |
| 中央区 | 2 | 1,940,000 | 1,552,000 | 1,358,000 |
| 浪速区 | 2 | 1,940,000 | 1,552,000 | 1,358,000 |
| 天王寺区 | 2 | 1,940,000 | 1,552,000 | 1,358,000 |
| 西成区 | 5 | 4,850,000 | 3,880,000 | 3,395,000 |
| 新中央区計 | 13 | 12,610,000 | 10,088,000 | 8,827,000 |
| 削減額計 | | - | △2,522,000 | △3,783,000 |

※現行カット期限は平成27年4月29日まで

※報酬に期末手当は含まず

行政に関する指標(2/2)

出典: 平成26年7月23日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

【「中央区」の行政関連指標】

| | | | | | |
|------------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------|----------------|
| ①区議会議員定数 | ②特別区の設置の日における 職員配置数 | ③将来の職員配置数案 (特別区長マネジメントの範囲) | | | |
| 13人 | 約2,100人 | 1,957人 (1,850~2,040人) | | | |
| ④歳出額(一般財源) 【H24 決算】 | | | 【参考・近似市】歳出額(一般財源) 【H23 決算】 | | |
| 1,088 億円 | | | 東大阪市 990 億円 | | |
| ⑤承継される財産 | ⑥人口一人当たり裁量経費 (財政調整後) | ⑦区間格差 (人口一人当たりの歳入) | | | |
| | | 財政調整前 | | 財政調整後 | |
| 9,617 億円 | 38,983 円 | 2.8 倍 | | 1.2 倍 | |
| ⑧市民利用施設 | | | | | |
| 図書館 | スポーツセンター | プール | 区民センター・ ホール | 老人福祉センター | 子ども・ 子育てプラザ |
| 5 館 | 5 カ所 | 5 カ所 | 6 カ所 | 6 カ所 | 5 カ所 |

※①及び②は、特別区設置協定書(案)によるもの

※③～⑦は、平成26年7月時点での試算によるもの

※⑧は、平成26年7月時点の状況をまとめたもの

※財政調整とは、特別区の事務分担に応じたサービスが提供できるように財源を調整すること

特別区の設置の日における職員配置数は約2,100人です。試算では、将来の職員配置数案は1,957人で、歳出額(一般財源)は、平成24年度決算ベースで1,088億円になり、東大阪市を上回る規模になります。

区に承継される財産は総額で9,617億円、財政調整を踏まえた人口一人当たり裁量経費は38,983円です。また、各特別区の人口一人当たりの歳入を見ると、財政調整前の格差2.8倍が財政調整後には1.2倍までは是正される計算です。

(参考)「中央区」の統計基礎データ

出典:平成26年7月23日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

| 項目 | | | 出典等 |
|----|------------------------|----------------|--------------------|
| 人口 | 人口〔H22〕 | | 415,237人 |
| | 年齢別 | 15歳未満 | 8.8% |
| | | 15歳以上65歳未満 | 68.9% |
| | | 65歳以上 | 22.3% |
| | 将来推計人口〔H27〕 | | 429,894人 |
| | 年齢別 | 15歳未満 | 8.0% |
| | | 15歳以上65歳未満 | 68.8% |
| | | 65歳以上 | 23.2% |
| | 将来推計人口〔H37〕 | | 459,008人 |
| | 年齢別 | 15歳未満 | 6.4% |
| | | 15歳以上65歳未満 | 73.2% |
| | | 65歳以上 | 20.4% |
| | 将来推計人口〔H47〕 | | 444,933人 |
| | 年齢別 | 15歳未満 | 6.2% |
| | | 15歳以上65歳未満 | 72.2% |
| | | 65歳以上 | 21.6% |
| | 人口〔H17〕 | | 390,487人 |
| | 世帯数〔H22〕 | | 242,045世帯 |
| | 世帯構成 | 単身世帯(高齢単身除く) | 47.2% |
| | | 高齢単身世帯 | 15.7% |
| | | 2人世帯(高齢夫婦世帯除く) | 14.1% |
| | | 高齢夫婦世帯 | 4.9% |
| | | その他(3人以上世帯) | 18.1% |
| | 昼間人口〔H22〕 (昼夜間人口比率) | | 983,087人 (237%) |
| | 人口密度〔H22〕 | | 13,570人/ k㎡ |
| | 外国籍住民数〔H22〕 | | 18,771人 |

(参考)「中央区」の統計基礎データ

出典:平成26 年7 月23 日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

| | | | | |
|----|------------|----------------------|--------------------|---|
| 面積 | | | 30.60 k㎡ | H24 大阪市統計書 |
| 産業 | 全産業 | 総生産〔H21〕 | 7兆6,842億円 | 総生産: H21年度市民経済計算 事業所数・従業者数: H24年度経済産業省経済センサス基礎調査 |
| | | 事業所〔H24〕 | 60,807ヵ所 | |
| | | 従業者〔H24〕 | 837,605人 | |
| | 商業 | 販売額〔H24〕 | 18兆8,335億円 | H24年度経済産業省経済センサス活動調査 |
| | | 事業所〔H24〕 | 12,655ヵ所 | |
| | | 従業者〔H24〕 | 161,592人 | |
| | 工業 | 出荷額〔H24〕 (事業所あたり) | 2,587億円 (2.4億円) | H24年度経済産業省経済センサス活動調査 |
| | | 事業所〔H24〕 | 1,063ヵ所 | |
| | | 従業者〔H24〕 | 13,166人 | |
| | 企業本社数〔H24〕 | | 23,552社 | H24年度経済産業省経済センサス活動調査 |

(参考)「中央区」の統計基礎データ

出典: 平成26年7月23日
大阪府・大阪市特別区設置協議会「特別区の概要」より

| 項目 | | | | | | | | | 出典等 |
|--------|-----------------------------------|---------------|------|---------------------|---------------|---|----------|--|--|
| まち・暮らし | 土地利用 | 建物用途〔H19〕 | | | 56.3% | | | | H19年度 土地利用現況調査 |
| | | 内訳 | 住居 | 27.5% | | | | | |
| | | | 商業 | 36.7% | | | | | |
| | | | 工業 | 14.3% | | | | | |
| | | | その他 | 21.4% | | | | | |
| | | 非建物用途〔H19〕 | | | 43.7% | | | | |
| | 住宅 | 持ち家割合 | | | 34.4% | | | | H22 国勢調査 |
| | | 借家割合 | | | 65.6% | | | | |
| | | 形態 | 一戸建て | 14.4% | | | H22 国勢調査 | | |
| | | | 長屋建て | 4.1% | | | | | |
| | | | 共同住宅 | 81.5% | | | | | |
| | | 市営住宅の戸数(区内割合) | | | 8,012戸 (3.3%) | | | | 大阪市都市整備局調べ 大阪府住宅まちづくり部調べ (H25年3月末時点) |
| | | 府営住宅の戸数(区内割合) | | | 625戸 (0.3%) | | | | |
| | 鉄道駅数(1kmあたり) | | | 72駅 (2.4駅) | | | | 大阪府市大都市局調べ (H25年7月末時点) | |
| | 居宅介護事業者(1kmあたり) | | | 638業者 (20.8業者) | | | | 厚生労働省HP「介護サービス情報公表シ ステム」(H25年6月末時点) | |
| | 認可保育所定員〔H25.10〕 (就学前児童100人あたり) | | | 5,746人 (29.8人) | | | | 大阪府子ども青少年局調べ | |
| | 保育所 | 国立 | 公立 | 私立 | 56 | 0 | 22 | 34 | H25 学校基本調査 |
| | 幼稚園 | 国立 | 公立 | 私立 | 33 | 0 | 22 | 11 | |
| | 小学校 | 国立 | 公立 | 私立 | 49 | 0 | 47 | 2 | |
| | 中学校 | 国立 | 公立 | 私立 | 28 | 1 | 18 | 9 | |
| | 高校 | 国立 | 公立 | 私立 | 25 | 1 | 13 | 11 | |
| | 短大 | 国立 | 公立 | 私立 | 2 | 0 | 0 | 2 | |
| | 大学 | 国立 | 公立 | 私立 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| | 病院・診療所数(1kmあたり) | | | 864ヵ所 (28.2ヵ所) | | | | H24 大阪市統計調査 | |
| | 町会・自治会等加入率 | | | 52.7% | | | | H23年1月 大阪府市民局調べを基に算出 | |
| | 国民健康保険加入者数〔H25.3〕 (加入率) | | | 126,948人 (29.7%) | | | | H25年度版 区政概要 | |
| | 生活保護人員〔H25.3〕 (生活保護率) | | | 39,821人 (93.3%) | | | | H25年度版 区政概要 | |